

自助・・・自らの命は自ら守る！

家具の配置見直しで、**安全空間**を作りましょう！

建物の耐震化と共に、家具などの転倒から命を守るため、まずできることがあります。

寝室や子ども部屋、お年寄りまた家族が長く過ごす空間には、できるだけ家具を置かないようにしたり、背の低い家具にしたりするなど、**安全空間**を作るようにしましょう。また、避難する際に、出入り口や廊下などをふさいでしまうような家具は、**避難経路となるところには置かない**ようにしましょう。

阪神・淡路大震災における死亡者の死因

	死者数
家屋、家具類等の倒壊による圧迫死と思われるもの	4,831 (88%)
焼死体（火傷死体）及びその疑いのあるもの	550 (10%)
その他	121 (2%)
合計	5,502 (100%)

※平成7年度版「警察白書」より(平成7年4月24日現在)警察庁調べ
 ※消防庁：阪神・淡路大震災について(確定報、平成18年5月19日)によ
 死者数は6,434名、全壊住家数は約10万5千戸



家具の上に重い物を置かない

内閣府：減災の手引きから

基本的には、家具の上にテレビなど重いものを置かないようにしましょう。またガラスケースなどは落ちてガラスが割れると、素足では逃げられなくなります。靴なども用意しておきましょう。

次回は、近所・互助についてお知らせいたします。